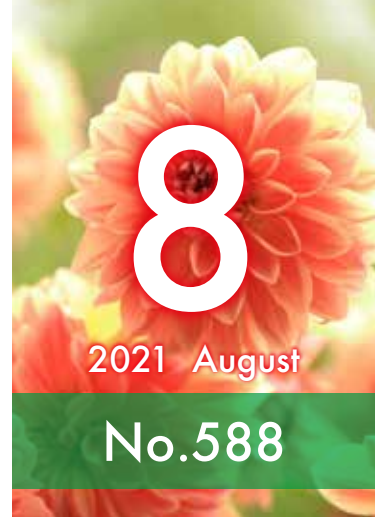




地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 140年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心の医療
患者の人權と意思を尊重します

診療 3 本柱
がん・救急・予防医療を中心に医療機能の充実を図ります

完結型医療
地域の医療機関と連携し安心できる医療の展開を行います

地域包括ケア
地域包括ケアシステムを推進し地域のまちづくりに貢献します

社会貢献
災害医療派遣・医療情報公開・医療ボランティアの活動を行います

医療人育成
地域医療に貢献できる医療人の育成を行います

新しく発熱外来ができました



これまで、発熱外来の運用を救急センター近くで行っていましたが、予防医療センター北側に新しく発熱外来ができ、8月10日から運用を開始しました。

外来時間は平日 8:30～16:00 まで、新型コロナウイルスに罹患後の在宅療養者も 16:00 から診察ができます。

発熱などの症状がある場合は、電話相談後、発熱外来の予約をとり受診となります。

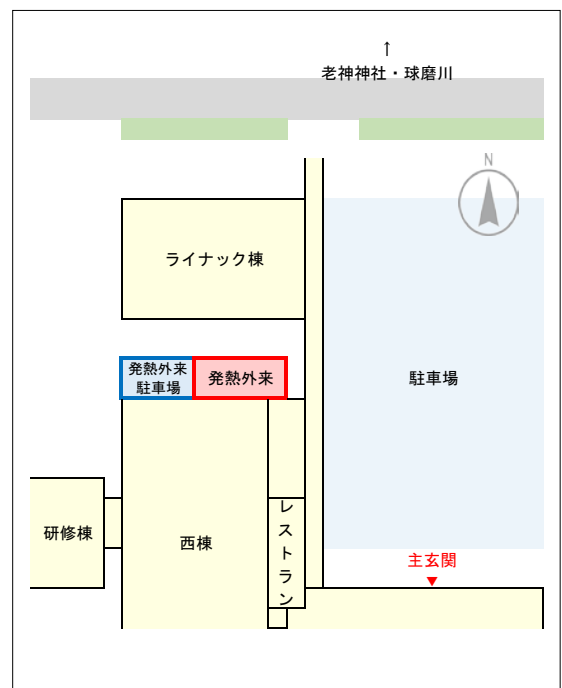
駐車場は予防医療センター横に発熱外来と表記し 3 台設けてあります。

受診の際は、必ずマスク着用と咳エチケットの徹底をお願いします。

熊本県内も新型コロナの拡大を受け、再び「まん延防止等重点措置」の対象地域となりました。今後、ますます患者増加が見込まれる中、患者様が安心して受診することができるように、ご理解とご協力をお願いします。

【発熱外来受診方法について】

- ・発熱や咳などの症状がある場合は、来院される前に、発熱外来へお電話下さい。予約制です。
- ・検査費用は保険適応ですが、医療費とは別に、選定療養費がかかります。



【発熱外来】TEL：0966-22-7878

【問い合わせ】TEL：0966-22-2191（代表）

キーパーソン(患者側責任者)についてのお知らせ

当院では、事前に患者さんと患者関係者間でキーパーソン(患者側責任者)を決めていただき、患者関係者間での情報の行き違いや治療方針の相違を避けるため、患者さんとキーパーソンを通して、病状説明や治療を進めております。

キーパーソン(患者側責任者)とは、患者さんと患者関係者の合意により、患者関係者の代表者となる方のことです。また、ご家族といわず、「患者関係者」と表現しているのは、患者さんを取り巻く関係性が法的な意味での親族関係のみとは限らないことも増えているため、より広い範囲の人(親しい友人、パートナー、成人後見人等)を含めているからです。

キーパーソン(患者側責任者)の方には、以下の役割を担っていただきます。

キーパーソン(患者側責任者)の役割について

- ① 病状説明を聞き、その内容を他の患者関係者に伝達する。
数名が同席して、一緒に説明を聞くことは差し支えありません。
- ② 病院からの重要な連絡や問い合わせを受ける窓口となり、患者関係者からの要望などを取りまとめて連絡する。
- ③ 病状急変時あるいは緊急時に、病院から連絡を受ける窓口となる。
- ④ キーパーソンと連絡がとれない場合には他の患者関係者に連絡する。

複数の患者関係者の方が個々に来院され、同じ説明を求めることはご遠慮ください。

また、電話での病状説明の問い合わせにはお答えできませんのでご理解とご了承をお願いします。

医療安全管理室 城本 真由美

独立行政法人地域医療機能推進機構 人吉医療センター

キーパーソン(患者側責任者)についてのお知らせ

当院では、事前に患者さんと患者関係者間でキーパーソン(患者側責任者)を決めていただき、患者関係者間での情報の行き違いや治療方針の相違を避けるため、患者さんとキーパーソンを通して、病状説明や治療を進めております。

《キーパーソン(患者側責任者)の決め方について》

- ◆患者さんにキーパーソンを決めていただきます。
- ◆患者さんがキーパーソンを決めることができない場合には、患者関係者で話し合ってキーパーソン1名を決めていただきます。
- ◆事情により途中で変更することはできませんが、この場合は予め「いつから誰に代わるのか」を主治医または看護師にお知らせください。キーパーソンの選定は、患者関係者の合意によることが必要となります。

《キーパーソン(患者側責任者)の役割について》

- ① 病状説明を聞き、その内容を他の患者関係者に伝達していただきます。
数名が同席して、一緒に説明を聞くことは差し支えありません。
- ② 病院からの重要な連絡や問い合わせを受ける窓口となり、患者関係者からの要望などを取りまとめて、ご連絡していただきます。
- ③ 病状急変時あるいは緊急時に、病院から連絡を受ける窓口となります。
- ④ キーパーソンと連絡がとれない場合には他の患者関係者にご連絡させていただきますこととさせていただきます。

複数の患者関係者の方が個々に来院され、同じ説明を求めることはご遠慮ください。
また、電話での病状説明の問い合わせにはお答えできませんのでご理解とご了承をお願いします。

2021年7月 人吉医療センター 医療安全管理室



通信機能付バイタルサイン測定機器 HRジョイントを導入しました

HRジョイントとは、電子カルテ(MIRAI s)と連動した測定器を使い、バイタルサイン・血糖測定値のデータを瞬時に電子カルテへ転送する自動入力システムです。

病棟では業務が多忙になると患者様のケアや処置が優先され、データ入力の後回しになることが多くあります。HRシステムを上手に活用することで、バイタルサインや血糖値がスピーディーに入力ができ、未入力や誤入力といった入力ミスが軽減され、看護業務の負担軽減にもつながると考えます。また、新型コロナウイルスで入院中の患者様に対応する看護師も接触時間が短縮でき感染リスクの軽減にもなります。

導入からひと月が立ち、使い慣れると「測定値がタッチするだけで入力することができ楽」という言葉が聞かれるようになりました。まだ一部の病棟に限った運用ですが、今後は各病棟へ広げていく予定です。

5階西病棟 看護師 久保田 良美



～がん征圧月間～

早期発見・早期治療、健康診断、
二次健康診断を受けましょう！

公益財団法人日本がん協会が昭和35年から毎年9月を「がん征圧月間」と定め、「がん検診の推進」「がん患者・家族への支援」「がんの正しい知識の普及と啓発」この3つを重点施策とし、全国の組織を挙げて取り組まれています。

当予防医療センターでは、毎年多くの方に健康診断（人間ドック）を受診していただいております。令和2年度は、約16,000人の方が受診されました。健康診断の結果、精密検査が必要な方、治療が必要な方には紹介状をお渡ししています。紹介状をもらったら必ずかかりつけ医等の医療機関を受診して下さい。

高齢化社会となり、2人に1人はがんになり、3人に1人はがんで死亡する時代になってきました。

健康診断は自分の健康状態を把握し、健康の維持、疾病の予防や早期発見に役立てるものです。健診結果の中身を必ず確認し、みなさんの健康生活に役立てて下さい。

人吉医療センター予防医療センター令和2年度対象検査別健診成績

* 以下の内容は、令和2年度の健診受診者について、診療情報提供書等の返信情報によるものです。

対象部位	検査	受診者数 (人) (A)	精密検査者数 (人) (B)	要精密検査率 (%) (B/A)	健診 受診者数 (人) (C)	健診 受診率 (%) (C/B)	癌発見数 (人) (D)	癌発見率 (%) (D/B)	癌発生率 比率 (%) (D/C)
胃	上部消化管X線	4,199	94	2.24%	40	42.55%	0	0.00%	0.00%
	上部消化管内視鏡	3,798	65	1.71%	31	47.89%	4	0.11%	12.90%
大腸	S状結腸内視鏡	789	22	2.80%	14	63.64%	0	0.00%	0.00%
	便潜血	8,887	455	4.80%	212	46.58%	4	0.04%	1.88%
肺	胸部単純X線	12,864	54	0.42%	37	68.52%	1	0.01%	2.70%
	胸部CT	577	12	2.08%	11	91.67%	0	0.00%	0.00%
乳腺	乳腺超音波 +マンモグラフィ	4,373	40	0.91%	35	87.50%	10	0.23%	28.57%
子宮	腹部超音波 +経膈超音波	3,483	260	7.46%	158	60.77%	0	0.00%	0.00%
甲状腺	甲状腺超音波	4,807	16	0.33%	10	62.50%	3	0.07%	30.00%
肝臓	肝臓超音波	4,983	82	1.65%	67	81.71%	2	0.04%	2.99%
前立腺	PSA	1,117	94	8.42%	46	48.94%	1	0.00%	2.17%
PET-CT	PET-CT	27	9	33.33%	7	77.78%	1	3.70%	0.41%

(診療情報提供書の返信情報：令和3年7月31日時点)

人吉・球磨で推定される前立腺がん罹患患者数

人吉・球磨には約130,000人の人口があり約60,000人の男性人口があります。(グラフ1) 年齢別人口を日本全国と比較すると60代以降で人口割合が高くなり、より高齢者になると比率はより高くなります。(グラフ2)

周知のとおり前立腺がんは高齢者に多くみられます。全国と比較して高齢者の比率が多い人吉・球磨では前立腺がんはどの程度推定されるのでしょうか。今回、罹患患者数を計算し推定してみました。

がん登録・統計によると、平成27年、全国で前立腺がん罹患した人は約80,000人でした。(グラフ3) 罹患率をみると、50代から増加し70代以降で横ばいになっていることがわかります。男性人口10万人当たり500-600人の罹患率です。(グラフ4)

上記を用いて、人吉・球磨で予想される前立腺がん罹患患者数を推定しました。人吉・球磨の年齢別人口と全国の年齢別罹患率とを掛け合わせて計算します。結果は116.4人と推定され、年齢別にみると、50代より若年者は少なく70代前半が最多で突出していました。70代後半以降は80代後半まで横ばいでした。(グラフ5)

最後に、人吉医療センター・予防医療センターでの男性受診者数および前立腺がん検診受診者数2019年度を示します。(グラフ6) 70代前半の受診者数は比較的多いのですが、70代後半以降の受診者数がとても少ないという結果でした。

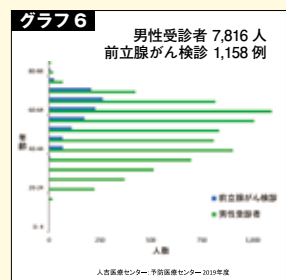
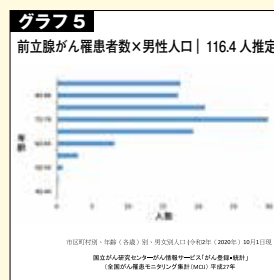
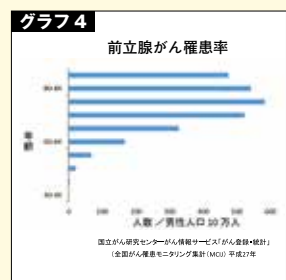
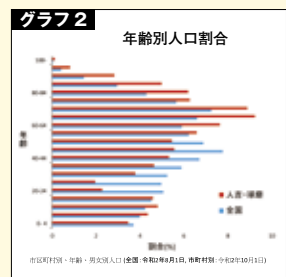
人吉・球磨では前立腺がんの罹患患者数は70代前半で最多となり、70代後半以降も横ばいで推移します。前立腺がんを早期に発見するためには、70代、80代の前立腺がん検診受診率を上げることが重要であると考えられました。

予防医療センターでは、検診を受診される方は、オプションで前立腺の腫瘍マーカーの検査を追加することが可能です。詳しくは、予防医療センターまでお問い合わせください。

＜お問い合わせ＞

予防医療センター (Tel: 0966-22-7070) ※平日時間内

泌尿器科 中熊 健介



第7回 AYA 教育 Web セミナーへ参加して

15歳以上40歳未満の思春期・若年成人をAYA（Adolescent and Young Adult）世代と呼びます。毎年がんと診断される人全体のおよそ2%にあたる約2万人の若者が、AYA世代でがんと診断されています。

国内では平成30年（2018年）に策定された第3期がん対策推進基本計画に基づき、本格的なAYA世代のがんへの取り組みが始まりました。がん診療連携拠点病院として当院でもAYA世代のがん医療を充実させるとともに、患者のライフステージに応じたきめ細やかな支援を提供していく事が求められています。

今回、8月7日に一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会主催の AYA 教育 Web セミナーへ参加しました。

第1部教育講演では、公認心理師より「AYA 世代がん患者への心理支援～生きる力を支える関わりを目指して～」と、がん看護専門看護師より「AYA 世代のがん患者の生きる力を支えるケア～臨床の場で医療者にできること～」、第2部経験者と医療者の対談では、経験者2名の方より診断時のご自身の置かれている立場や治療中の状況・ご家族や医療者との関わり、心理状態、再発時の状況などを丁寧にお話されました。

当院ではAYA世代のがん疾患の受診はがん患者数の2～3%で全国平均とあまり差がありません。AYA 世代である私自身、同世代の患者さんに対して親近感や共感性が高まるが故に感情移入してしまい、自分に何ができるだろうか、どう接したら良いかなど、戸惑うところが多くあります。今回の講演を聴き、患者さん自身も家族や友人との関係、仕事（学校生活）との両立、恋愛、結婚、子育てなど、ライフステージに応じた様々なライフイベントに直面することが多く、戸惑いや不安、孤独を感じていた事を話されました。また、家族や友人に対してはこれまで通り普通に接して欲しかったこと、医療者に対しては理解者になって欲しい事や、長い入院中はたわいのない話をしてくれた事が嬉しかったなど、その場その場で、適切な対応が求められている事がわかりました。より良い関わり方は個々によって大きく異なるものであり、個人としてではなく、多職種によるチームで連携して情報収集、情報共有することが大切だと感じました。

AYA 世代患者さんを支える医療者として、今後もチームで情報共有を行いながら支援チームの一人としてサポートできるよう、研鑽を深めたいと思います。

がん相談支援センター 杉松 紗織

AYA 研 × 関西・AYA がん患者支援ネットワーク
× 大阪国際がんセンター 共催

【第7回】支援者としてできることを学ぶ

AYA 教育 Web セミナー

AYA 世代ががん患者とともに自分らしく生きていく
闘病に耐えているのと同じくらいに苦しいのは、今までの生活が崩れていくことです。
さまざまな困難に直面して自分自身で乗り越えていくこともありますが、
いろいろな方々によって困難を乗り越えることも出来るようにです。
AYA 世代の特性を知り、彼らを支えることを考えるとはどういうことかを学びます。

テーマ：『自分らしく生きる力』

【日時】▶▶▶ 2021年8月7日（土）13:00～17:00
【会場】▶▶▶ WEB開催
【対象】▶▶▶ 医療従事者だけでなく、広く一般の方も対象としています

参加費無料
定食100名
（事前登録制）

第1部：教育講演
13:10～14:00
1. AYA 世代がん患者への心理支援
～生きる力を支える関わりを目指して～
14:00～14:50
2. AYA 世代がん患者の生きる力を支えるケア
～臨床の場で医療者にできること～

第2部：経験者と医療者の対談
15:20～16:20 「AYA 世代の体験談から、“自分らしく生きる”を考える」
16:20～16:50 総合討論

お申し込み
URL: https://ayaken.jp/event/web_seminar7
お問い合わせ E-mail: office@ayaken.jp

一般社団法人 AYA がんの医療と支援のあり方研究会 × 関西・AYA がん患者支援ネットワーク
× 大阪国際がんセンター 共催

「私のカルテ」・「私のノート」・「私の日記」について

熊本県では、いつでもどこでも質の高いがん治療を安心して受けていただくために、県内共通のがん診療連携パス「私のカルテ」、患者さんやご家族の治療や療養を手助けするための「私のノート」「私の日記」が運用されています。

「私のカルテ」とは

がん診療連携拠点病院の専門医やかかりつけ医、保険薬局の薬剤師等が情報共有することで、患者さんがいつでもどこでも質の高いがん治療を受けられる為にお使いいただくものです。身体症状等ご自身で記載する欄もありますが、主に医療者が診療の記録をするものです。患者さんが所持し、かかりつけの医療機関や保険薬局の受診時に提示します。

癌診療連携拠点病院の医師が必要と判断したがん患者さんへ発行しています。



「私のノート」とは

主に在宅療養中であって、往診や訪問看護などの在宅サービスを利用されている方にお使いいただくものです。患者さんやご家族、病院の医師や看護師、往診医、訪問看護師、ホームヘルパー、ケアマネージャー等が身体症状や日常生活支援に関する事を自由に記載し、治療・療養について情報交換する交換日記のようなものです。

がん診療連携拠点病院の医師やかかりつけ医、在宅医等が重い病気の患者さんへ発行しています。

「私の日記」とは

患者さんの体調や病気、治療のこと、思い等を自由に記載して使う日記です。医療機関や保険薬局に提示していただくと、患者さんの状況を医療者に伝え、十分な意思疎通をすることができます。

がん診療連携拠点病院などからご希望の患者さんへお渡しすることができます。



お問い合わせ先：

熊本県「私のカルテ」がん診療センター (096-373-5764・5763)

人吉医療センターがん相談支援センター (0966-22-2191 内線 240)

特定行為に係る看護師の実習を行っています

当院は、JCHOの看護師特定行為区分：創傷管理関連の研修施設として、共通科目を放送大学で1年間のオンライン受講した後、院内で区分別科目を講義、演習、実習を行っています。特定行為5行為について、講義、演習を済ませ、実習（患者に対する実技を含める）を行ってきましたが、特定行為「褥瘡又は慢性創傷における血流のない壊死組織の除去」の対象者が少なく、今回、同じJCHOグループである宮崎江南病院に実習を依頼し、7月26、27日に宮崎江南病院形成外科で実習を行いました。形成外科部長大安医師、長友皮膚・排泄ケア認定看護師に剪刀、鋭匙を用いた外科的デブリードマンやwet to dry法での物理的デブリードマンの方法の指導を受けながら、2日間、6名の患者様に9回のデブリードマンを実施しました。壊死組織と肉芽組織を分けながら切除したり、バイオフィ

ルムを毎回丁寧に除去するなど、実り多い実習でした。

実習では、自分がデブリードマンした創傷が翌日改善している状況を観察し、こまめなデブリードマンの必要性や創傷ケアのやりがいを感じ、特定行為研修を受けて、よかったと思うことができました。今回の学びを今後の創傷ケアにつなげていきたいと思っています。

また、今回、実習のための訪問でしたが、宮崎江南病院における褥瘡対策での多職種での連携や皮膚・排泄ケア認定看護師の働き方の実際を見学し、自分の褥瘡対策へ向けた今後の課題を見出すこともでき、とても有意義な実習となりました。

皮膚・排泄ケア認定看護師 繁富 香

連携施設 探訪

当院では、みなさんが住み慣れた地域で安心して生活していただけるよう、人吉・球磨地域の医療・福祉機関と連携して地域包括ケアを推進していきたいと考えています。そこで、地域の社会資源を周知していただくため、連携施設をご紹介します。今回は、「特別養護老人ホーム 千寿園（869-6401 熊本県球磨郡球磨村大字渡乙1750／仮設：868-0086 熊本県人吉市下原田町瓜生田字645）」さんです。

特別養護老人ホーム 千寿園 Vol.42

【施設の特徴】

令和2年7月豪雨の被災により、休業していました事業を地域の皆様の温かい声で、また、行政機関等のご支援により、令和3年4月より人吉市下原田町において仮設施設で再開いたしました。（定員：従来型多床室40名、短期入所生活介護8名）

基本理念のもと、ご利用者、ご家族、地域と連携し、ともに福祉の向上を目指してまいります。

【対象者】

◎介護老人福祉施設

介護保険の要介護認定で要支援を除いた、要介護3～5と認定された要介護者の方が利用できます。要介護1～2の方については特例対応となります。

◎短期入所生活介護（ショートステイ）

介護保険の要介護認定で要支援1・2（介護予防）、要介護1～5の方がご利用できます。

【サービスの内容】

◎介護老人福祉施設

家庭での生活に不安のある方で、入院の必要のない方の日常生活のお手伝いをします。居宅（自宅）での介護が困難な高齢者（寝たきりや認知症などで日常生活全般にわたった常時介護を必要とする方）の日常生活を手助けし、食事や入浴、排泄といった日常生活上の介助や機能訓練、健康管理等を行うサービスです。

◎短期入所生活介護（ショートステイ）

ご利用者家族の病氣や冠婚葬祭などで、一時的に介護が困難な時にもご利用できます。短期間入居していただき、食事、入浴、その他の必要な日常生活上の支援や機能訓練などを行うサービスです。



【地域の皆様に一言】

私ども千寿園のスタッフは「慈愛の心」を持って人生の先輩である高齢者の方々へ「優しい介護と温かい支援」を行い、「輝いた人生」を送っていただけるように努力していくことを理念としています。

まだ再スタートしたばかりで以前の水準までサービスを提供できませんが一步一步、地に足をつけて進んでいけたらと思っています。地域の皆様とともにあり続ける施設でありたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

【お問い合わせ】

TEL 0966-33-0011 FAX 0966-33-0177
生活相談員 小栗 啓

地域在宅医療サポートセンター 国保水俣市立総合医療センターとオンライン会議

7/20 国保水俣市立総合医療センターと地域在宅医療サポートセンターの取り組みについてオンライン会議を実施しました。国保水俣市立総合医療センターでは、水俣市芦北郡医師会が担う地域在宅医療サポートセンターと連携型の医療機関として、今後より良い運用を目指して、当院での在宅医療サポートセンターの役割や取組みの視察依頼があり、オンラインでの会議を実施されました。アドバンスケアプランニング（ACP）の普及啓発活動やくまもとメディカルネットワーク（KMN）を活用した地域での情報共有等、これまで当院が取り組んできたことを説明させていただき、在宅看取りの現状について当院の緩和・在宅医療センター渡邊医師から説明をさせていただきました。逆に水俣地域での現状についても教えていただき、双方の実情を把握することが出来ました。また、県の在宅医療のデータによると訪問診療を受ける患者数は、平成29年から令和元年にかけて県内の多くの圏域で増加傾向にあり、特に球磨地域は伸び率が50%以上となっている現状があります。在宅医療を希望したい住民の方のニーズに応えられるよう今後も訪問診療実施機関や訪問看護ステーションなどの在宅サービス提

供機関との更なる連携が必要と思われますし、これから「在宅医療」「在宅看取り」という選択肢を考えられている方のために更なる地域住民への普及啓発、教育も必要と考えます。今回、オンライン会議を通じて、他圏域のサポートセンターとの交流ができたことで、当院の現状・課題が見え、とても有意義な時間となりました。今後も他圏域のサポートセンターと交流を大切に切磋琢磨して、各地域で在宅医療がより身近なものとなり、地域づくりに貢献していきたいと思っています。



球磨地域在宅医療サポートセンター／人吉医療センター
医療福祉連携室 田頭 隼人

患者サポートセンターのご案内

患者サポートセンターでは、病気やケガなどによって生じる様々な不安や悩みをお持ちの患者さん、ご家族の方のご相談をお受けしております。

例えば、通院や入院はどのようにしたらよいのだろうか、医療費はどれくらいかかるのだろうか、介護の制度を知りたい、など、医療に関するどんな事でも構いません。これらは、病気やケガを経験すると、多くの方が抱えられる不安や心配事ではないでしょうか。

当院では、医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、社会福祉士、臨床心理士など、多職種によるサポート体制を活用しております。そして、地域の医療機関や介護・福祉施設とも連携しながら、安心して治療を受けられるよう、また、早めの社会復帰ができるよう問題解決に向けて支援しております。

例えば・・・

- 【医療・看護相談】 ・ 病気の説明を聞いたがよくわからない
・ 不安が強く、気分が落ち込む
- 【受診相談】 ・ どの診療科を受診したらいいの
・ 家族の付き添いはいつ必要

- 【福祉相談】 ・ 治療費やこれからの生活費が心配
・ 介護保険の申請方法がわからない

【がん相談、セカンドオピニオン等】

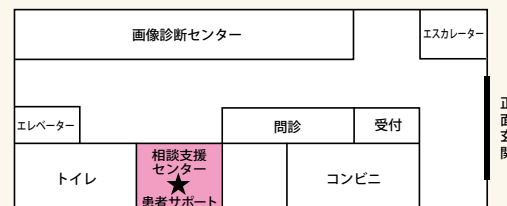
- ・ セカンドオピニオンを受けたい
- ・ 治療方法について聞きたい など

その他、ご意見やご要望も併せて承っておりますので、どうぞご利用ください。

なお、予約は必要ありませんので、開設時間内にお気軽にお越しください。

【開設時間】 8:30～17:15

【場所】 1階 患者サポートセンター（相談支援センター内）



正面玄関



新 任 紹 介



眞鍋 笙之介（臨床研修医/協力型）

趣味：バドミントン

生活信条：泰然自若、臨機応変

自分の性格：慎重

自分のコマーシャル：済生会熊本病院から来ました。約2ヶ月間、主に小児科・産婦人科の診療に携わらせていただきます。不慣れな診療分野で至らない点多々あるかと思いますが、精一杯努めたいと思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

